

酒々井町郷土研究会々報

第82号

平成8年10月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

赤穂事件と佐倉の殿さま

白石 栄子

元禄十四年三月十四日(一七〇一年四月二十三日)巳の上刻(午前九時半頃)、江戸城中、松の大廊下に於いて事件が起つた。勅使饗応役の浅野内匠頭長矩が高家筆頭の吉良上野介義央に突然刃傷に及んだものである。これは翌十五年十二月十五日未明、赤穂四十七士の吉良邸討入りと合わせて赤穂事件として世に知られている。この刃傷に驚天動地の思いをしたのは、当事者の浅野・吉良両家と共に、わが佐倉の殿さまであった。

毎年の正月、將軍は京都の朝廷に対し、新年を寿ぐ年賀使を送り、朝廷からは答礼として勅使・院使が差し遣わされるのが恒例となっていた。これは幕府にとつては、朝廷との親密な関

係を世に誇示する重要な行事であった。特に翌十五年には、將軍綱吉の生母ではあるが、出自は名もなき八百屋の娘である桂昌院に、破格ともいえる武家最高位の位である「従一位」の贈位があつたことからみて、前年である十四年は、朝廷に対して猛烈な受位運動の最中であつたと思われ、この時の答礼使は格別気遣いな使者であつた。

二月四日、答礼使の饗応役に赤穂藩主の浅野内匠頭長矩・伊予吉田藩主の伊達左京亮村豊の両名が任せられた。

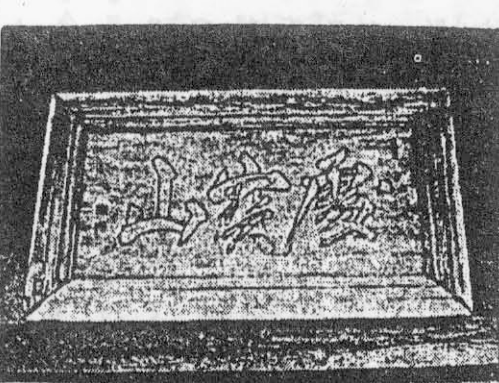
三月十一日、答礼使一行が江戸城龍の口にある伝奏屋敷に入り、翌十二日には將軍綱吉と対面。十四日、最も重要な「勅語奉答」の儀式が行われようという時、内匠頭による刃傷事件が起つた。その原因として、正史である『徳川実紀』に「世に傳ふる所は」とあるように、當時、市中では浅野家より吉良家

への「賄賂不足説」が専らの噂であつたが、他にも「塩田道恨説」や「内匠頭乱心説」など諸説あつて真偽のほどは判らない。

内匠頭は綱吉の直裁によつて田村右京大夫邸に於いて即日切腹となり、後任は佐倉六万七千八百石の藩主「戸田能登守忠真」にかえ命ぜらるる(『実紀』)となつた。わが佐倉の殿さまにとつて降つて湧いたような災難であつた。饗応役は一萬七千石クラスの大名に任せられる名譽職ではあつたが、その経費は全て饗応役の負担となり、莫大な出費を要するものであつた。

即時、伝奏屋敷に詰めていた浅野家中の者と交替し、屋敷内の家具・調度から食器にいたるものまでの一切を自家のものに取り換えなければならぬ。その全てが典札に則さねばならず、その煩雜なことは、その教授方として高家職がおかれたくらいで、戸田家中は天変地異にも等しい大騒動になつたことは想像に難くない。

勅答の儀は場所を替えて無事終つたが、十八日の勅使出立まで、忠真にとつて心労の続く日



戸田能登守忠真の掲額(勝蔵院)

々であつたであろう。しかも無事終つてほつとしたのも束の間、越後高田への転封となり、六月には佐倉を去つていつた。元禄十四年は忠真にとつて悪夢の年ではなかつたか。

余談ではあるが、酒々井のお不動さまとして知られる勝蔵院は、元禄十二年九月に父忠冒の死去によつて家督を継いだ忠真が、恐らくは父の供養のために建立したもので、十二月に着工、翌十三年四月に完成したものである。本堂正面の「處室山」とある扁額は、忠真の直筆で、この顔を見上げる時、忠真の藩主としての多難が、この額から始まつたのではないかとの思いが湧いてくる。

歴史講演会に

出席して

長谷川 榮

千葉家十九代輔胤が西歴一四五九年に家督をつぎ下総介になり、この人が本佐倉城を築城したといわれています。

酒々井の地に城を築いた理由について、城としての条件は勿論、水運の利があつたという説明があり新たな感動を覚ええました。

一四五九年は室町時代、政権の中央である京都では、足利義政が將軍で、同夫人日野富子、足利義尚、足利義視、これに加えて細川勝元、山名宗全等が歴史に登場し、応仁の乱(一四六七-一四七七年)に入ろうとする時代でした。同乱によって、幕府は有名無実となり、かわって各地の土豪、国人の勢力が強まり、戦国大名の出現となりました。その結果京都は荒廃して公家の力が弱まっていった時代であつたといわれています。

佐倉城歴代の千葉城主はこのような時代の中にあつたので必然的に戦国大名として一國を守り維持

するための政略として、北條早雲、氏綱、氏康、氏政等と姻族関係を通じて盟を結び、この時代を乗りきつたと思います。

酒々井における千葉家代々の施政は、このような時代背景にあつて十分評価できるのではないかと思っています。

一五九〇年、小田原城の落城により、北條側についた千葉家は北條氏と共に滅亡したとあります。千葉家最後の城主重胤とその弟俊胤は人質として小田原城内にいたが、落城に際して、幼いということ、徳川家康の同情により助命されたとあります。又、千葉氏の滅亡に対して、一族郎党に対する処置も寛大であつたと聞いています。

これ等の行為は今の世でも尊敬できるものではないかと思えます。歴史の中に登場する人間を学び、自身を向上して行くことが大切であると思つています。歴史講演会は、自身を向上するために大きな意義があると思えます。

講演会報告

去る八月十一日の郷土研究会創立二〇周年記念講演会では、国立歴史民俗博物館長の石井進先生をお迎えして「中世の層総を考える」というテーマでお話ししていただきました。

船橋・八千代・成田・富里・佐倉など多方面から参加もあり、一五〇名を超える方がたが熱心に聴講されました。

おかげ様で盛会裡に講演会を終えることが出来ました。

ありがとうございました。



泉をかこんで一体み泉のようにくんでもつきないが、つづきます。よもやまはなしが、どうぞあなたもお仲間

植物名訂正のお知らせ

「ジガバチソウ」でした!!

亀井 香久乃

昨年十月に行われた、下岩橋地区植物観察会で訪ねた最後の山(岩橋城跡)で、自生ラン

を、「クモキリソウ」と答えたが、咲いた花は「ジガバチソウ」でした。葉だけの頃は、見分けがつかぬほど似ています。因みに、「クモキリソウ」の花は淡緑色ですが、「ジガバチソウ」は藤脂の茶がかった色です。余談ですが、同属の「スズムシソウ」も花の色は「ジガバチソウ」に似ていて、花の形が鈴虫のようなので付けられた名前です。以上三種共クモキリソウ属です。花を見ないと確客できないことを痛感いたしました。謹んで「ジガバチソウ」と訂正させていただきます。

野草観察会案内

きびしかった暑さも終わりを、ようやく過ぎしやすくなりました。

今回の野草観察会は、酒々井総合公園周辺を訪ねます。去る六月七日に有志の方々で墨の総合公園内の湿地帯に「タコノアシ」を「下岩橋」から移植しましたので、今年こそは美しく真赤に染まった「タコノアシ」が見られるかと楽しみです。

ご指導下さる亀井さんをやさしく囲んで、上手に質問していただくようよろしくお願い致します。

※見頃は別に別記 (野草誌)





(その一)

会田会長、青木副会長

社会教育功労賞を受賞

さる七月二十三日、栄町の「いれあいプラザさかえ」に於いて、印旛郡市社会教育委員連絡協議会主催の平成八年度印旛郡市生涯学習大会が開催され、この度、会田会長は昭和五十二年より現在まで、青木副会長は昭和五十五年より現在まで、町文化財審議委員として町内文化財の指定、保護、酒々井町史の編纂に尽力され、また郷土研究会役員として地域社会に根づいた活躍をされ、功績を称賛され、社会教育功労賞を受賞されました。

(その二)

間もなく、相京文庫開設

此のたび、前郷土研究会会長であった故相京晴次さんの蔵書が、御遺族の御好意によって町に寄贈されました。

各地の市町村史を始め、文学、歴史、俳句、自然関係と多岐に亘る約七〇〇冊の蔵書は、永年

酒々井町の生き字引であられた相京さんを支えてきたものです。

現在、生涯生活センター構内の文化財収納室に於いて整理中ですが、整理終了次第、御利用にだけますので、その節には是非お立ち寄り下さい。

一人でも多くの方々のお役にたつことを願っております。

見学会案内



県外見学会

11月14日(木)

栃木県馬頭町方面 (雨天決行)

紅葉にけなわ、食欲の秋、那珂川の落鮎の味覚を求め、周辺の馬頭町・湯津上村の古い歴史を求めの旅を楽しんでいただきます。

奇岩「御前岩」(馬頭町)

今から約三〇三年前、徳川光圀公が領内役分の折、御前岩を「巖になられる」と「これは、誠に天下の奇岩じゃ」と驚かれて、「かかるものを眼目にさすことは、よろしからず」と、土地の役人に命じて、御前岩の対岸に竹を植えさせたという世にも希な奇岩である。

馬頭院(馬頭町馬頭)

真言宗智山派の寺。建保五年(七七三年前)、京都醍醐寺座主、光室印丈和尚が御堂を建立し延命地蔵を安置したが、後に徳川光圀が参詣され、十万石の格式を与え、朱印寺とされた有名な寺院である。

光圀山法輪寺(湯津上村、佐良土) 佐良土にある天台宗の古刹。開基については、貞観二年に慈覚大師(円仁)が開東、東北方面を巡錫の際、霊夢によって釈迦如来、大日如来二仏の尊像を感得し、天台宗の一寺を創建したといわれている。

湯津上村立歴史民俗資料館

失われつつある郷土の考古、歴史、民俗の文化財を見学。

那須国造碑(湯津上村、笠石)

笠石神社に安置されている石碑で、この保存顕彰には元禄期徳川光圀の尽力に負うところが大きかった。

真里谷清雲信胤墓所(湯津上村湯津上) 本郷津市の真里谷城主のお墓

上侍塚古墳(湯津上村侍塚) 那須地方には六基の前方後方墳があり、上侍塚古墳は栃木県では第二番目の規模。下侍塚古墳は、上侍塚古墳に次ぐ大きなもので、徳川光圀の命により日本最初の学術発掘調査の行われたことでも有名である。国の指定史跡にもなっている。

県内見学会

10月24日(木)、10月25日(金)

成田方面 (雨天決行)

成田市は国際都市である一方、古い歴史と伝説に包まれた都市でもあります。今回は、すぐお隣りの街ですが、一日掛けて、ゆっくり、じっくり、見学します。

芝山仁王尊(芝山町芝山)

観音寺で天台宗の古刹。奥に三重塔(県指定文化財)は、江戸期の建築で塔婆建築の少ない本県では貴重なものである。十月一日オープンする「歴史の里・芝山ミュージアム」は、一階をばにわ博物館、二階は秋尊館として円空仏など仏教美術、現代美術を展示、建物の前面の銅鳥焼の壁画は、銅鳥焼の名工、第七代小笠原藤石衛門さんの作。

三里塚御料牧場記念館(成田市三里塚) 明治の始めから三里塚の地にあつて、我々畜産振興のパイオニアとしての輝かしい足跡を残した御料牧場のありし日の姿をしのびます。なお、ここにはわが酒々井町の野馬牧の牧士頭であった島田長右衛門家に伝わった「住倉七牧絵四」が展示されています。

成田空港(成田市三里塚)

昭和五三年五月開港した、国際交流の新しい拠点として毎日三三〇便以上が就航し、世界四〇ヶ国、五二社、九六都市から沢山の人を迎えている日本の表玄関です。

航空科学博物館(芝山町岩山)

成田空港南側の小高い丘の上にあります。一九一〇年、日本で最初に飛んだ複葉機の複製や、歴代の名機の模型が展示されています。パイロットの飛行訓練用のシミュレーターや、コックピットの一部も見られます。

生涯学習フェスティバル参加

郷土研究会創立二〇周年記念文化展

「酒々井と野馬牧場」

江戸時代、酒々井の島田長右衛門家は代々、牧士組頭を勤め、その屋敷内に野馬会所が置かれるなど野馬牧経営の中心でした。今回の文化展では、昭和四十七年、島田家より発見された文書や「住倉七牧大絵回」を中心に、野馬牧の実態を探ります。

酒々井町に伝えられた貴重な史料を是非ご覧下さい。

日時 十一月六日(十一月九日)

会場 中央公民館

会議室



郷土研行事業案内

10月~12月

	10月	11月	12月
史談会	19日(土) 午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑬ 講師 高橋健一先生	11月の史談会は生涯学習フェスティバルのためお休みします。 (注) 10月の史談会の会場が変更になりました。(サンラム裏の中央公民館)	7日(土) 午後1時30分 中央公民館会議室 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑬ 講師 高橋健一先生
県内見学会	10月24日(木) A班 各定員33名 25日(金) B班 申込受付日 10月11日(金) 9:00 受付場所 中央公民館 ロビー 会費 1,000円 (昼食各自負担) キャンセル 実施日3日前まで 会田宅(496-4861)	雨天代行 成田空港・芝山方面 (出発 9:15) コース 中央公民館(9:15) — 芝山仁王尊(観音教寺) — 三里塚御料牧場記念館 — 成田空港(昼食) — 航空科学博物館 — 中央公民館(16:00)	
野草観察会	10月29日(火) 雨天代替日 10月30日(水) 集合場所 ① 中央公民館 8:50集合 ② 総合公園入口事務所前 9:30(現地集合) ※ 問い合わせ先 会田宅		酒々井総合公園(墨)周辺 中央公民館(9:00 出発) — 総合公園事務所(9:30) — 周辺観察(12:00 で終了します。)
県外見学会	11月14日(木) 定員45名 (雨天代行) 申込受付日 10月11日(金) 9:00 受付場所 中央公民館 ロビー 会費 6,500円 キャンセル 実施日の3日前まで 会田宅まで連絡先	雨天代行 栃木県馬頭町方面 (出発時間 6:30) コース 中央公民館(6:30) — 馬頭町 御前岩 — 馬頭院 — 小川町(昼食) — 光光山法輪寺 — 湯津上村 湯津上村立歴史民俗資料館 — 狹間造碑 — 中央公民館(18:30 予定)	
名勝探訪	12月4日(水) 雨天代替 12月6日(金) (自由参加・費用各人負担) コース 京成酒々井駅 — 上野 — 赤坂見附駅 — サントリー美術館 — 赤坂見附跡 — 弁慶橋 — 清水谷公園 — 喰違見附跡 — 四ッ谷見附跡 — 四ッ谷駅 — 赤坂見附駅 — 上野駅 — 京成酒々井駅 (都合により行程変更もあります)		赤坂方面 (京成酒々井駅 8:10 集合)
生涯学習フェスティバル 文化展	11月6日(火)~11月9日(金) 12:00まで 於 中央公民館 会議室 11月6日は 13:00~16:30 7・8日は 9:00~16:30 9日は 9:00~12:00 郷土研究会創立20周年記念 「酒々井と野馬牧場」		

名勝探訪

12月4日(水)
雨天代替 12月6日(金)

赤坂方面

師も走るいそがしい月ですが、一日のんびりと歩いてみましょう。サントリー美術館は、サントリービル十一階にあります。入館料一〇〇〇円はちょっと高いようですがすぐれた美術品が多く展示されていますので、ゆっくり鑑賞しましょう。

弁慶橋を渡り、そびえ建つホテルニューオクタニを見ながら清水谷公園に向かいます。ここは大久保利通の暗殺された地で、哀悼碑が建っています。公園の横には、名前の由来、うしく湧泉の形が復元されています。昔をしのばせます。

今回は三個所の見附跡を回りますが、見附とは、江戸城内外郭を守る城門のことで、俗に三六あったといわれ、今は外濠に沿って跡だけが残っています。この辺りは桜の咲く頃には、見事な花のトンネルになります。冬はこの季節、江戸の昔を偲ぶのも一興かと思えます。

あとがき



今年も九月十五日の敬老の日、各方面でお祝いの行事が催されました。生き方は人それぞれですが、健康で長寿はみんなの願いだと思います。生き方として、(一) 必要とされ、いなくては困る人。(二) いた方がいい人。(三) いてもいなくてもいい人。(四) いては困る人。さて貴女は何番目? 最後まで(一)でいられたら幸せだと思います。郷土研で頭と身体を使って、いつまでも(一)でいられるよう頑張りましょう。

時は秋、空気もさわやか、おいしいおにぎりをもって、郷土研行事に参加しましょう!

月日	内容	参加者数
7月6日	史談会「史料に読む酒々井の歴史」⑬ 佐倉城跡の散策 高橋健一先生	20
7月23日	会田会長・青木副会長、社会教育功労賞受賞	10
8月11日	郷土史講演会 「中世の屋敷と考案」	154
8月29日	部長会	12
8月30日	編集会議	7
9月6日	運営委員会	23
9月7日	史談会「史料に読む酒々井の歴史」⑬	22
9月13日	名勝探訪 赤坂方面	20
9月24日	会報校正	6
9月28日	会報発送	25